

水質浄化剤を開発

廃水に使用可能で素早い凝集性

グリーン発電大分

グリーン発電大分(大分県日田市、石田博社長)は、水質浄化



「メダカ君」の試供品

剤「メダカ君」を開発した。同社が運営する木質バイオマス発電所から排出される燃焼灰を主原料としており、廃水などに添加することで、澄んだ水と凝集物に分離できる。

用し、地元のいちご農家への供給を行っている。同製品の開発も合わせて「地域の農林水産分野のかけ橋となる企業」(森山和浩代表取締役専務)を目指す。同社の取り組みが、一

同社は、山林未利用材を活用した発電事業を行う。今後、発電で生じる排熱を利かす。活用できないかという思いから、同製品を開発した。特徴は、水性インキ廃水やバイオエタノール廃水をはじめとする、幅広い汚泥廃水の水質浄化に使用でき、素早い凝集性を持つことだ。山林未利用材を

歩前進する。同社は、運営する木質バイオマス発電所(発電規模、5700kW)で、1日2トンの燃焼灰を排出する。燃焼後に出る灰を、どうにか利かす。活用できないかという思いから、同製品を開発した。特徴は、水性インキ廃水やバイオエタノール廃水をはじめとする、幅広い汚泥廃水の水質浄化に使用でき、素早い凝集性を持つことだ。山林未利用材を

主な原料としているので環境負荷が少なく、使用者にも安全。凝集物も再資源化できる。使用用途は、工業向けや食品関連、土木建築などを広く想定する。荷姿で1〜20kgを用意、価格は未定。森山専務は「同製品が完成し、水質改善にも取り組むことができ。発電事業や、農業と当社をつなぐ提携農家への排熱供給を進め、より地域に貢献していきたい」と話す。